



盛岡広域スポーツ
コミッションの
情報はこちらから

ハンドボール王国・岩手の誇りを胸に Tokyo2020の扉を開く

Tokyo2020開催国として、1976年モントリオール大会以来44年ぶり2度目の出場権を獲得した日本女子ハンドボール。不來方高校出身の吉田起子選手(オムロン)が、岩手県的女子ハンドボールとして初のオリンピックを目指す。

撮影●田中秀典 文●盛岡広域スポーツコミッション

ハンドボール
吉田起子
YUKIKO YOSHIDA
「オムロン」

Profile

吉田起子(よしだゆきこ)●1989年7月12日生まれ。盛岡市出身。見前中学校、不來方高校、東京女子体育大学を経て現在はオムロンレーアンドデバイス様所属。171cm、67kg。血液型A型

- 不來方高校時代の主な成績
2005～2007 3年連続インターハイ出場
2007 国体少年女子出場
- 東京女子体育大学時代の主な成績
2009 全日本インカレ優勝
- 日本ハンドボールリーグにおける主なタイトル表彰
2015 得点王、7mスロー得点賞、フィールド得点賞、ベストセブン
2017 7mスロー得点賞
- 殊勲選手賞、フィールド得点賞、ベストセブン
●全日本社会人選手権における主なタイトル表彰
2015、2018、2019 ベストセブン

全力でプレーすることが一番の恩返し

吉田は不來方高を卒業後、インカレ王者東京女子体育大学に進学。3年生にはアテネ五輪韓国代表として銀メダルに輝いた名選手チャン・ソヒさんがいた。吉田が2年のとき、チャン選手が剥離骨折で試合に出られなくなり代役に大抜擢される。まさに青天の霹靂。「この私が？」という感じでした。チャン選手のマンツーマンの指導はかなり厳しかったようだが、この経験が吉田に「点取り屋」としての揺るぎない自信を植え付けた。

大学卒業後の進路については多少の迷いがあったという。「そろそろ盛岡に帰って楽になりたいな。でも、いろいろ考えるうちに私をここまで育ててくれた方々にまだ何も恩返しできていないことに気がついたんです。こうして、日本リーグでプレーすることを決意し、最も熱心に勧誘してくれたオムロンレーアンドデバイス(株)へ入社する。

もう一つエピソードがある。吉田はオムロンの中心選手として2016年の希望郷いわて国体を迎えた。被災地を勇気づけるため、ふるさと選手として岩手県代表のユニフォームを着るべきか迷った吉田に対し、恩師である小川先生は「今のあなたを育て、必要とし



ディフェンスを引き寄せながらチャンスを窺う(2019茨城国体 vs大阪府戦)

「点取り屋」吉田の最大の敵は、人つこの良さ

さて、日本リーグ屈指の「点取り屋」吉田がTokyo2020の代表に選出される可能性はどれくらいあるのか。日本ハンドボール

ている場所(熊本県)を大切にしたいのではないかとアドバイスした。この一言で、ユニフォームは違っても自分らしく全力でプレーすることが故郷への恩返し、と思いついた吉田は熊本県代表として岩手国体に臨み、チームを準優勝に導く。ちなみに今年は、茨城国体に出場する熊本県選手団結団式で選手宣誓の大役を務め、ハンドボール成年女子の4位入賞にも貢献した。



高い打点から切れ味鋭いシュートを打ち込む吉田(同じく2019茨城国体 vs大阪府戦)

岩手県女子ハンドボール初のオリンピック誕生へ

不來方高校出身で現在、日本リーグの強豪オムロンに所属する吉田起子選手は、Tokyo2020日本代表入りが期待される攻撃のスベリリストだ。

不來方高ハンドボール部は、男子は県高校総体で22年連続優勝、女子も最近10年間で9回優勝と、県内では無敵を誇る。さらに男子は2013年3月の全国選抜大会で念願の日本に輝き、不來方高主体で臨んだ同年の東京国体でも初優勝。女子も2019年3月の全国選抜大会で初の3位入賞を果たし、男女ともに全国屈指の強豪校となった。

吉田が入学した2005年の不來方高は、まだ岩手の王者から全国の強豪への過渡期。入学時から主力選手として活躍したが、吉田が今も強い信頼を寄せる当時の監督の小川至門先生(現花巻南高教諭)によれば「身体能力が高く、しかも素直で吸収力のある選手」だったけれども、さすがに日の丸を背負うまでのイメージはなかったようだ。

日本の男子ハンドボールは4度オリンピックに出場しているが、最後に出場したのは1988年ソウル。女子が出場したのは1976年モントリオール(男子と同時出場)の二度きりで、もちろん1989年創部の不來方高出身のオリンピック選手はいない。

歴史をひもとけば、1976年モントリオールに菊池悟さん(盛岡・高卒・故人)が、1988年ソウルに首藤信さん(盛岡商高卒)が出場し、今も岩手県ハンドボール界のレジェンドとして語り継がれている。もし吉田がTokyo2020の代表入りを果たせば、岩手県的女子ハンドボールとしては初の快挙となるのだ。

リーグや全日本社会人選手権ではベストセブンの常連。昨年は日本ハンドボールリーグの殊勲選手にも選ばれている。トップ選手の中でもシュートの技術とスピードは図抜けており、プレーの引出しも多い。ピンチに動くことなく、ここ一番では無類の勝負強さを発揮する。しかし、そんな吉田でさえ日本代表の座をつかむのは容易ではないという。なぜか?

今の日本代表監督の戦術の中では、吉田のポジションである左45度は攻撃専門ではなく、攻守を兼任できる選手を求めているからだ。吉田の負担を減らすために攻撃に専念させてきたオムロンの戦術が、代表争いの点ではマイナス要素になっているらしい。さらに吉田は「代表合宿のように、招集されてから短期間で自分をアピールするのが苦手なんです」と話す。熱烈に応援している側からすれば少し歯がゆい。現在の日本代表の戦術と吉田のプレースタイルのミスマッチという不運はあるもの、もしかすると彼女の最大の敵は岩手県人特有の「人つこの良さ」ではないかと思ってしまう。であれば、しばらくその「人つこの良さ」を封印してもらい、「恩返し」の集大成としてがむしゃらに日本代表の座を目指してほしい。